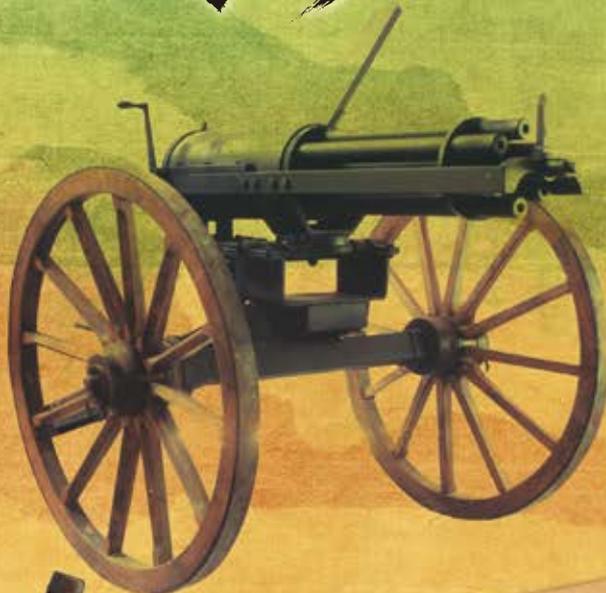


只見町戊辰戦争 史跡めぐり

奥会津只見
戊辰戦争150周年記念



只見町戊辰戦争史跡めぐり概説

只見と戊辰戦争

いまから150年前、奥会津地方一帯において、戦闘が繰り広げられました。慶応4年(1868)1月、京都の鳥羽伏見の戦いから始まった戊辰戦争です。薩摩と長州を中心とする反幕府側の西軍と徳川幕府側の東軍との戦いでした。戦場は次第に北上し、5月には長岡戦争、8月に入ると会津戦争に突入します。

5月19日、長岡城が落城すると、長岡藩主一行総勢約380人が会津に亡命するため八十里越を越えて、5月21日、只見に到着しました。八十里越は会津と越後を結ぶ長大な峠で、丸一日以上かかる険阻な山越えの道です¹¹。藩主の牧野忠訓は只見字原の名主宅に、姫君さまは原の新国慎三郎宅に、老公の牧野忠恭は只見字沖の名主宅に宿泊します³⁴⁶。原の名主宅の分家には、今でも姫君が使用した布団が保存されています。藩主一行は只見に5日間滞在したのち若松へと出発しました。

7月29日、長岡城が再落城すると、引き揚げ兵や避難民が八十里越を越えて只見に入ってきました。その数は、8月2日から10日までの間で25,000人にも達しました。折から八十里越は長雨が続き、泥だらけの道はよくすべりました。この

峠を越えれば、どうしても数日間は只見に滞在せざるを得ません。当時の只見地方は田子倉村から塩沢村まで8か村、総戸数292戸の寒村でしたが、ここへ大挙して避難してきた人々であふれたのです。30戸の楢戸村には、508人が宿泊した記録が残っています¹³。

緊急に必要なになったのは避難者の食糧でした。当時は秋の収穫前であり、長雨の影響で若松からの救援米もとどこおっていました。会津藩から野尻代官を命じられ、食糧調達や受入れの任務にあたった丹羽族は、東奔西走しましたが、食糧はなかなか集まりません。

8月5日には、深手を負った長岡藩家老の河井継之助が只見に到着します。叶津口留番所で丹羽族から会津の戦況を聞いたのち、目明し清吉の家に宿泊しました⁸。その翌8月6日の明け方、万策尽きた丹羽族は、責任をとって自害します²。

悲報を知った只見の人々は、その忠義に心を打たれ、わずかな蓄えまで持ち出して、長岡の人々を救うことができたのです。

河井継之助は8月12日、傷治療のため若松に向けて出発しますが、傷の状態が悪化したため塩沢



会津と越後の国境となる八十里越木ノ根峠。150年前、万を超える人々がこの峠を越え、会津に逃れた。



大字只見字原の旧名主宅の分家には、長岡藩主が使用した3組の布団が大切に保存されている。



河井継之助が7日間逗留した目明し清吉の旧宅⁸。

の医者、矢沢宗篤宅に投宿し、8月16日に亡くなりました。村人はその死を悼み、残骨をひろい集めて塩沢の医王寺に墓を建てました¹²。

会津戦争は、9月22日、鶴ヶ城の落城によって終結します。しかし、只見地方ではその後も戦闘が続きました。9月23日、入小屋の戦い(現南会津町東)で負傷して自害した加賀藩士の森川余所之介の墓は小林の新福寺にあります¹⁶。

9月24日の滝原の戦い(現只見町坂田)では、東軍、西軍双方に死者がでました。西軍の死者は加賀藩士の太田治右衛門で、布沢の龍泉寺に墓地があります¹⁵。只見字沼田原では、只見・叶津の戦いがあり、東軍が西軍の築いた只見・叶津間の陣地を急襲し、西軍を八十里越や大塩方面に追いやりました。この戦いがあったのは9月25日のことで、会津戦争最後の戦いとなりました⁹。

只見字沖の墓地には、長岡藩士の石垣龍三郎の



現存する丹羽族が自害した部屋。鈴木家が大切に保存している²。

墓がありますが、現在でも只見の人が墓をたいせつに守っています⁷。さらに只見には長岡藩士の子どもを預かり育て、長岡藩士の家系を引く家もあります。

只見字寺にある長福寺は、東軍・西軍の宿舎として使用されたもので、当時のままの姿をとどめています¹。

戊辰戦争で活躍した元白虎隊士の篠沢寅之助は、明治6年(1873)、只見小学校教員として半年間赴任しましたが、その折、家族で逗留した家があります⁵。

只見の人々は、長岡戦争での避難者を助け、河井継之助の墓を守りながら現在でも墓前祭を行っています。只見と長岡は戊辰戦争という悲劇がむすんだ深い縁でつながっているといえます。

※赤字の数字は裏面の史跡のナンバーです。



河井継之助の命日の8月16日に毎年行なわれる墓前祭。塩沢、医王寺において読経、焼香のあと剣舞などが行なわれる¹²。



河井継之助の墓前祭のあとに開かれる「河井継之助を語る会」には、町内外から多くの人々が集う。

只見町戊辰戦争史跡



三神杉・浅草岳
登山道
ゲート 一般車両進入禁止
スノーシェッド
11 八十里越・古道入口 標柱
浅草岳入叶津登山口 駐車場
叶津川
国道252号 叶津

252 八木沢
堅盤橋
叶津川
叶津
只見川
9 只見・叶津の戦い跡 標柱
沼田
只見線 (不通区間)
只見駅

塩沢川
河井継之助記念館
12 河井継之助の墓 医王寺 標柱
只見町 河井継之助記念館
塩沢川
只見線 (不通区間)
塩沢橋
只見川
塩沢
塩沢駅
河井継之助記念館 駐車場
10島橋
10島
*河井継之助記念館駐車場から 徒歩500m、約6分

要害山
只見
只見駅
ふるさと館 田子倉
2 1 3 4 5 6 7 8
ただみ・ブナと川のミュージアム
JR只見線
只見湖
只見ダム
黒沢

花立橋
伊南川
360
289
榎戸沢
榎戸
榎戸橋
荒井原
13 長岡藩士 家族逗留の村 榎戸・観音堂

榎戸
13

見て歩きマップ



1 東軍・西軍宿舎跡

長福寺(只見町大字只見字寺)

慶応4年(1868)9月、東軍(旧幕府軍)が撤退したあと、西軍(新政府軍)の宿舎として使用されました。



2 只見代官所跡 (丹羽族自刃の家)

鈴木岑生宅(只見町大字只見字上町)

慶応4年8月、長岡城が落ちて長岡藩士やその家族が多数只見に避難してきました。会津藩の野尻代官・丹羽族は、只見代官所(仮役宅)に常駐して食料の確保に奔走しますが、とうとう万策尽き、8月6日、死をもって償いました。その忠義に心を打たれた只見の村人たちは、わずかな蓄えまで提供して長岡藩の人々を救うことができました。



3 長岡藩主・牧野忠訓宿所跡

新国多門宅跡(只見町大字只見字原)

長岡城が落城し、藩主一行380人が、慶応4年5月21日、只見に入ってきました。ここは只見村原の名主宅跡で、藩主・牧野忠訓が5日間、宿所とした場所です。この居宅は、昭和13年火災のため消失してしまいました。



4 長岡藩・姫君宿所跡

新国孝男宅(只見町大字只見字原)

長岡城が落城し、藩主一行380人が、慶応4年5月21日、只見に入ってきました。ここは長岡藩主の姫君が5日間、宿所とした場所です。



5 元白虎隊士・篠沢寅之助の逗留地

目黒麴店(只見町大字只見字田中)

元白虎隊士・篠沢寅之助が明治6年(1873)10月から半年間、只見小学校に教員として赴任した際、家族で逗留した場所です。その後上京して巡査となり、西南戦争に出役して戦死しました。享年25歳。



6 長岡藩・牧野忠恭宿所跡

菅家道夫宅跡(只見町大字只見字沖)

※標柱はありません

長岡城が落城し、藩主一行380人が、慶応4年5月21日、只見に入ってきました。ここは只見村沖の名主宅跡で、長岡藩老公・牧野忠恭が5日間、宿所とした場所です。この居宅は、平成29年に取り壊されました。



7 長岡藩士・石垣龍三郎の墓

沖組墓地内(只見町大字只見字宮前)

慶応4年6月27日、只見で亡くなった長岡藩士の墓。ここに埋葬された経緯は不明です。只見字田中の目黒竹市家が現在も墓守りをしています。



8 河井継之助逗留地跡

五十嵐昭一宅(只見町大字只見字塚前)

慶応4年8月5日から11日まで河井継之助が逗留した目明し清吉の屋敷跡です。河井継之助はここで7日間静養していました。10日には幕府侍医の松本良順が治療に訪れています。

見学上の注意：国道に駐車すると交通の妨げとなり危険です。駐車される場合は、会津若松方面に20mほどすすんだ場所に、民宿ふる里駐車場がありますのでご利用ください。



9 只見・叶津の戦い跡

只見町大字只見字沼田原地内

慶応4年9月25日早朝、この地で会津藩兵と西軍(新政府軍)が戦い、西軍を撃退しました。ここは会津戊辰戦争で最後の激戦地となった場所です。



10 西軍本陣跡

旧長谷部家住宅(叶津口留番所)
(只見町大字叶津字居平)

慶応4年9月、西軍(新政府軍)は、八十里越を越えて只見に入り、叶津口留番所に本陣を構えて、東軍(旧幕府軍)と戦いました。



11 八十里越・古道入口

浅草岳入叶津登山口

慶応4年、長岡藩士とその家族、そして河井継之助が越えてきた峠道です。ここから山神杉を越え沼ノ平にいたる浅草岳の登山道は、天保14年(1843)に開削された八十里越の古道をそのまま利用しているものです。



12 河井継之助の墓

医王寺(只見町大字塩沢字上ノ台)

慶応4年8月16日、長岡藩家老・河井継之助は、塩沢の医師・矢沢宗篤宅で亡くなりました。享年42歳。村民は茶毘にふされた細骨を集めて墓をつくりとむらいました。現在も命日に墓前祭がおこなわれています。



13 長岡藩士家族逗留の村

楯戸・観音堂(御蔵入三十三観音五番札所)(只見町大字楯戸字上ミ方)

慶応4年8月、戸数30軒の楯戸村に、長岡戦争から逃れてきた長岡藩士の家族508人が10日間ほど滞在しました。



14 滝原の戦い跡

只見町大字坂田字原地内

慶応4年9月24日、東軍(旧幕府軍)と西軍(新政府軍)が戦いました。激戦で双方1名ずつ戦死者がでました。西軍の戦死者は加賀藩士の太田治右衛門で、布沢の龍泉寺に墓があります。東軍の戦死者は、会津藩河原田隊の渡部長吉でした。



15 西軍戦没者の墓

龍泉寺境内(只見町大字布沢字寺沢)

慶応4年9月24日、滝原の戦いにおいて27歳で戦死した加賀藩士の太田治右衛門は、龍泉寺境内に埋葬され、官修墳墓*として祭られました。



16 西軍戦没者の墓

新福寺境内(御蔵入三十三観音三番札所)(只見町大字小林字七十苅)

慶応4年9月23日、西軍(新政府軍)の加賀藩士・森川余所之助は、入小屋(南会津町東)の戦いで負傷し、21歳の若さで切腹して果てました。新福寺境内に埋葬され、官修墳墓として祭られました。



*官修墳墓：日本政府が管理する、幕末から西南戦争にかけての官軍死者の墓地。昭和17年(1942)までに1013所が設置された。戦前まで政府が維持費を支給していた。

只見駅から各史跡へのおよその距離

駅周辺	只見駅 450m	7 長岡藩士・石垣龍三郎の墓 200m	6 長岡藩・牧野忠恭宿所跡 200m
	350m	5 元白虎隊士・篠沢寅之助の逗留地 200m	4 長岡藩・姫君宿所跡 200m
	100m	3 長岡藩主・牧野忠訓宿所跡 100m	2 只見代官所跡 100m
	800m	1 東軍・西軍宿舎跡 1.3km	只見駅 1.3km
叶津・塩沢方面	只見駅 0.8km	8 河井継之助逗留地跡 1.3km	9 只見・叶津の戦い跡 1.3km
	0.8km	10 西軍本陣跡 4.4km	11 八十里越・古道入口 4.4km
	6.2km	12 河井継之助の墓 6.2km	
明和地区方面	只見駅 3.6km	13 長岡藩士家族逗留の村 12.3km	16 西軍戦没者の墓 12.3km
	4.4km	14 滝原の戦い跡 2.3km	15 西軍戦没者の墓 2.3km

駅周辺の史跡をめぐるなら只見駅からレンタサイクルもおすすめです

普通自転車 1日 200円／電動アシスト付自転車 1日 500円(冬期はお休み)

只見町観光まちづくり協会(只見駅舎内) TEL 0241-82-5250

●史跡の写真は、平成29年11月初旬に撮影したものです。

只見町河井継之助記念館



北越戊辰戦争を戦った越後長岡藩軍事総督・河井継之助終焉の地、塩沢に建てられた歴史資料館。継之助や戊辰戦争に関する資料を展示するほか、継之助の終焉の間が保存されています。国道252号沿いに駐車場があります。

只見町塩沢字上ノ台850-5 TEL.0241-82-2870 open: 10:00 ~ 16:30
定休日: 木曜日/冬期休館 只見駅より約8.8km

ただみ・ブナと川のミュージアム



只見地域の豊かな自然環境と地域文化を伝える自然史系博物館です。常設展示に加え、自然環境と地域文化を解説する企画展、自然・環境・民俗等の専門家による講座、フィールドでの自然観察会などを定期的に開催しています。

只見町只見字町下2590 TEL.0241-72-8355 open: 9:00 ~ 17:00
定休日: 火曜日 只見駅より約1.4km

会津只見考古館



会津只見考古館は、縄文時代中期から弥生時代中期にかけての土器・石器、住居跡などが発掘された窪田遺跡(県指定史跡)の遺跡地に建ちます。この地で発掘された縄文・弥生時代の土器などが多数展示されています。

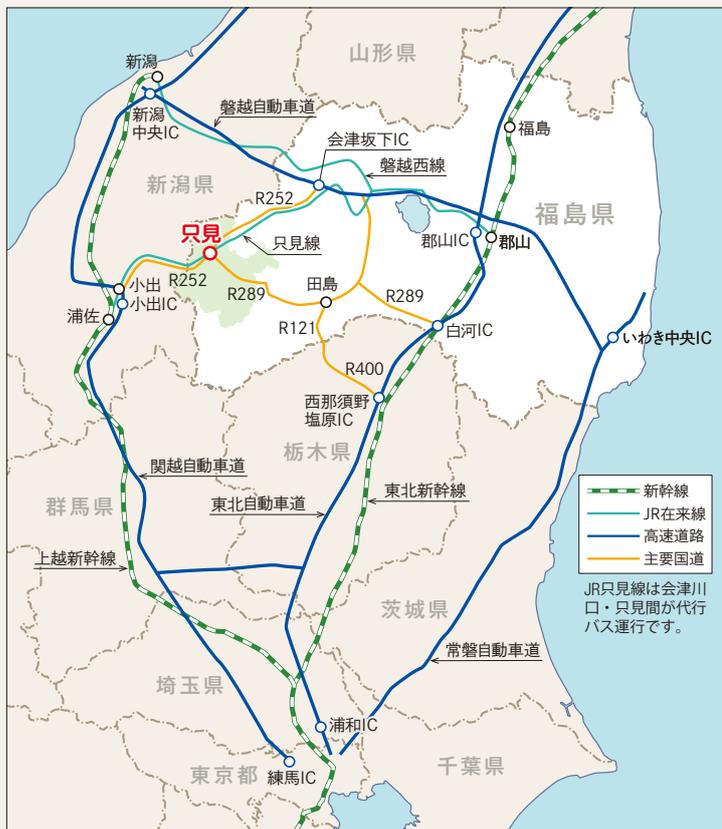
只見町大倉字窪田33 TEL.0241-86-2175 open: 9:00 ~ 16:00
定休日: 月曜日/冬期休館 只見駅より約14.7km

ふるさと館田子倉



日本有数の規模を誇る田子倉ダムの建設により水没した、旧田子倉集落の歴史と文化を伝える歴史民俗資料館です。豊かな山村であった田子倉の生活と文化を伝える資料、田子倉ダム建設にまつわる資料などが展示されています。

只見町只見字田中1299 TEL.0241-72-8466 open: 9:00 ~ 17:00
定休日: 火曜日 只見駅より約350m



史跡見学上の注意

- 史跡の標柱は、冬期間積雪のため撤去されます(およそ11月中旬から4月中旬)。
- 史跡のほとんどは、道路わきにあります。見学される場合は、通行車両に十分注意してください。
- 車を駐車する際は、路上駐車を控え、交通の妨げにならないようにご配慮ください。
- 見学先には、現在もお住まいになっている住宅があります。現地では、近所迷惑にならないよう騒いだり大声をだしたりせず、節度あるマナーで見学してください。

只見町へのアクセス

- 車
- 東北自動車道・西那須野塩原ICから約2時間30分
 - 関越自動車道・小出ICから約1時間30分(冬期間通行止)
 - 磐越自動車道・会津坂下ICから約1時間30分
- 列車
- 東京ー(上越新幹線)ー浦佐ー(上越線)ー小出ー(只見線)ー只見
 - 郡山ー(磐越西線)ー会津若松ー(只見線)ー只見

表紙の写真: 左上から、河井継之助記念館に入館すると出迎えてくれる継之助像、河井継之助記念館に展示のガトリング砲(複製)、戊辰戦争滝原の戦いを描いた屏風絵(部分)